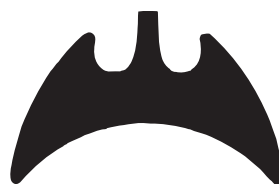


消 防 団 編

1. 福山市消防団

2025年(令和7年)4月1日現在

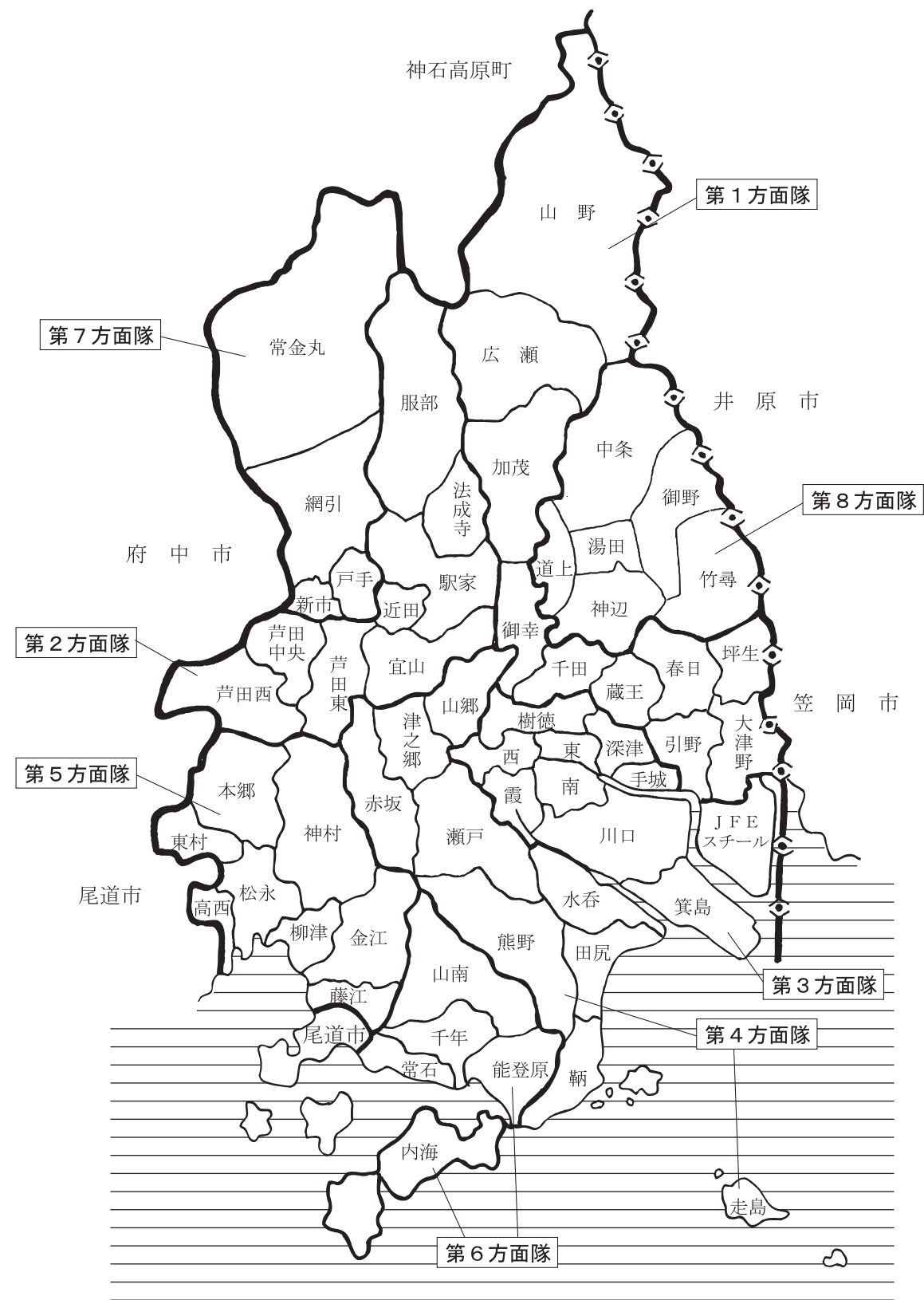
人 口	453,266 人
世 帯	217,268 世帯
面 積	517.72 km ²



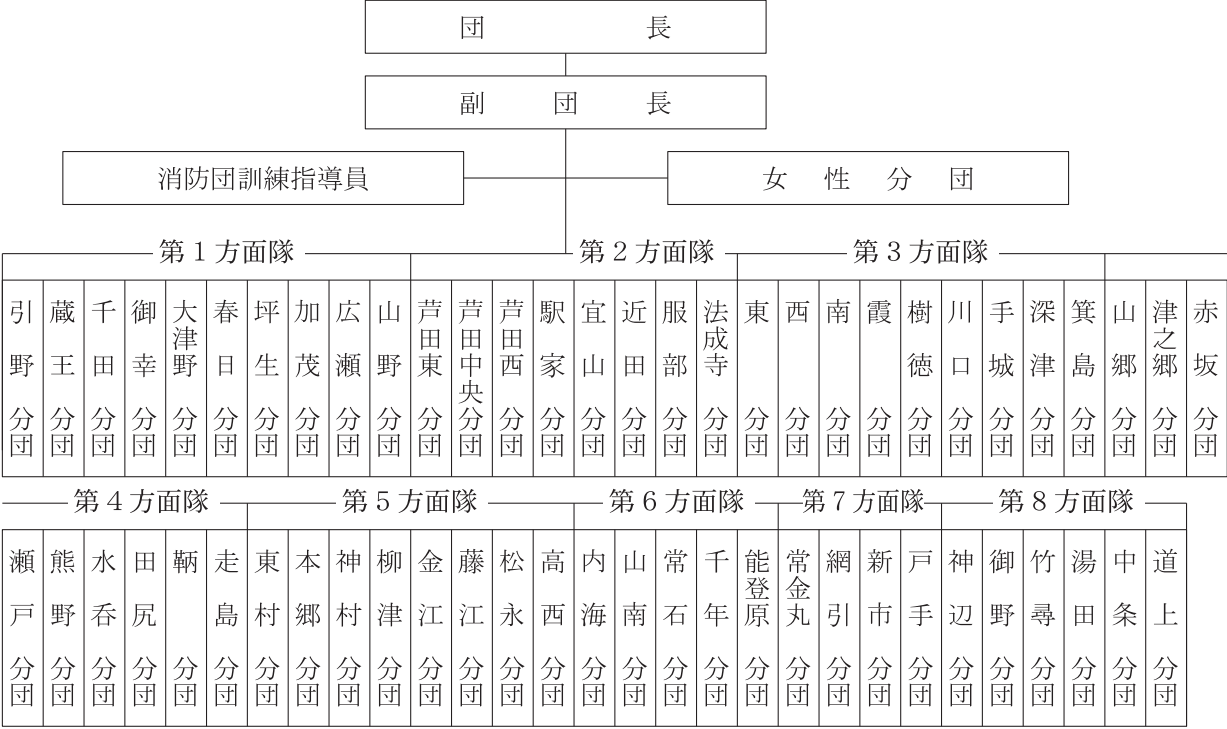
福山市章

福山城跡のある城山は、もと蝙蝠（こうもり）山と言われ、蝙蝠は福に通ずることから福山と言われました。その蝙蝠と山をかたどったものです。

(1) 消防団の分団配置図



(2) 消防団の組織図



(3) 消防団の定員と報酬

2025年(令和7年)4月1日現在								
階級 区分	計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
定員	2,864	1	9	69	120	170	170	2,325
職務報酬	(年額)	82,500	69,000	50,500	45,500	38,000	37,000	36,500
出動報酬	1日につき8,000円以下							

(4) 消防団員退職・新任状況

2024年度(令和6年度)							
退職団員数	自己都合	傷病			死亡		
		計	公務	その他	計	公務	その他
123	122	—	—	—	1	—	1
	在職年数						
	5年未満	5～10	10～15	15～20	20～25	25～30	30年以上
	30	20	20	16	11	13	13
新任団員数	18歳～ 20歳	21歳～ 25歳	26歳～ 30歳	31歳～ 35歳	36歳～ 40歳	41歳～ 45歳	46歳以上
137	10	21	22	16	27	16	25

(5) 消防団在職年数別団員数

2025年(令和7年)4月1日現在

階 級 年 数	計	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員
平 均 在 職 年 数	14.9 (5.8)	43.0	33.1	24.9	22.3	15.2	13.8	14.0
計	2,534 (59)	1	8	68 (1)	120 (2)	170 (3)	170 (3)	1,997 (50)
5 年未満	412 (33)	—	—	—	—	3	12	397 (33)
5 年以上～10年未満	437 (8)	—	—	—	2	32	40 (2)	363 (6)
10年以上～15年未満	471 (9)	—	—	5	14 (2)	48 (1)	50 (1)	354 (5)
15年以上～20年未満	419 (9)	—	1	11 (1)	27	49 (2)	29	302 (6)
20年以上～25年未満	315	—	—	19	30	21	22	223
25年以上～30年未満	278	—	—	17	31	11	14	205
30年以上	202	1	7	16	16	6	3	153

※ () は女性消防団員で内数

(6) 消防団年齢別団員数

2025年(令和7年)4月1日現在

階 級 年 数	計	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員
平 均 年 齢	44.0 (41.7)	68.0	60.6	51.8	50.1	44.5	43.6	43.2
計	2,534 (59)	1	8	68 (1)	120 (2)	170 (3)	170 (3)	1,997 (50)
18歳以上～21歳未満	23 (5)	—	—	—	—	—	—	23 (5)
21歳以上～26歳未満	70 (5)	—	—	—	—	—	2	68 (5)
26歳以上～31歳未満	153 (3)	—	—	—	—	6	7	140 (3)
31歳以上～36歳未満	228 (7)	—	—	—	1	6	11 (2)	210 (5)
36歳以上～41歳未満	372 (5)	—	—	1	2	34	35	300 (5)
41歳以上～46歳未満	492 (8)	—	—	7	23	48	43 (1)	371 (7)
46歳以上～51歳未満	555 (9)	—	1	24	40 (1)	46 (1)	42	402 (7)
51歳以上～56歳未満	396 (9)	—	—	20	34	23 (2)	24	295 (7)
56歳以上	245 (8)	1	7	16 (1)	20 (1)	7	6	188 (6)

※ () は女性消防団員で内数

(7) 消防団の団員表彰状況

2024年度(令和6年度)

区 分	叙 勲	消防庁長官	日本消防協会長	県 知 事	県消防協会長
計					
367	1	10	49	59	248

(8) 消防団の分団別定員と実員

区 分 分団別	定 員	実 員							
		計	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員
計	2,864	2,534	1	8	68	120	170	170	1,997
団 本 部	69	67	1	8	9	2	3	3	41
引 野	50	37	—	—	1	2	3	3	28
蔵 王	41	40	—	—	1	2	3	3	31
千 田	41	32	—	—	1	2	3	3	23
御 幸	51	39	—	—	1	2	3	3	30
大 津 野	50	49	—	—	1	2	3	3	40
春 日	39	32	—	—	1	2	2	2	25
坪 生	43	40	—	—	1	2	3	3	31
加 茂	65	47	—	—	1	2	3	3	38
広 瀬	25	22	—	—	1	2	1	1	17
山 野	25	15	—	—	1	2	1	1	10
芦 田 東	54	54	—	—	1	2	4	4	43
芦田中央	40	40	—	—	1	2	3	3	31
芦 田 西	50	50	—	—	1	2	4	4	39
駅 家	56	55	—	—	1	2	4	4	44
宜 山	52	50	—	—	1	2	3	3	41
近 田	22	21	—	—	1	2	1	1	16
服 部	50	50	—	—	1	2	3	3	41
法 成 寺	32	30	—	—	1	2	2	2	23
東	25	22	—	—	1	2	1	1	17
西	25	24	—	—	1	2	2	2	17
南	25	24	—	—	1	2	1	1	19
霞	25	22	—	—	1	2	1	1	17
樹 徳	31	28	—	—	1	2	2	2	21
川 口	45	43	—	—	1	2	3	3	34
手 城	27	26	—	—	1	2	1	1	21
深 津	25	25	—	—	1	2	1	1	20
箕 島	30	30	—	—	1	2	2	2	23
山 郷	50	48	—	—	1	2	5	5	35
津 之 郷	30	26	—	—	1	2	2	2	19
赤 坂	55	53	—	—	1	2	4	4	42

2025年(令和7年)4月1日現在

区 分 分団別	定 員	実 員							
		計	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員
瀬 戸	50	40	—	—	1	2	4	4	29
熊 野	60	57	—	—	1	2	5	5	44
水 呑	50	44	—	—	1	2	4	4	33
田 尻	27	23	—	—	1	2	2	2	16
鞆	45	45	—	—	1	2	3	3	36
走 島	55	46	—	—	1	2	3	3	37
東 村	39	39	—	—	1	2	3	3	30
本 郷	42	40	—	—	1	2	3	3	31
神 村	72	66	—	—	1	2	6	6	51
柳 津	27	27	—	—	1	2	2	2	20
金 江	42	42	—	—	1	2	3	3	33
藤 江	51	49	—	—	1	2	4	4	38
松 永	60	60	—	—	1	2	5	5	47
高 西	25	24	—	—	1	2	2	2	17
内 海	72	39	—	—	1	2	4	4	28
山 南	65	48	—	—	1	2	4	4	37
常 石	36	24	—	—	1	2	2	2	17
千 年	82	50	—	—	1	2	4	4	39
能 登 原	30	23	—	—	1	2	2	2	16
常 金 丸	95	73	—	—	1	2	4	4	62
網 引	75	63	—	—	1	2	3	3	54
新 市	75	72	—	—	1	2	3	3	63
戸 手	50	45	—	—	1	2	2	2	38
神 辺	75	69	—	—	1	2	3	3	60
御 野	74	69	—	—	1	2	3	3	60
竹 尋	75	69	—	—	1	2	3	3	60
湯 田	56	56	—	—	1	2	2	2	49
中 条	61	41	—	—	1	2	3	3	32
道 上	50	50	—	—	1	2	2	2	43

(9) 消防団の分団別消防機械配置状況

区 分 分団別	計	消防ポンプ 自 動 車	小型動力 ポ ン プ	積 載 車			そ の 他
				小 計	普 通 車	軽四輪車	
計	281	59	111	109	100	9	2
団 本 部	6	—	3	1	1	—	2
引 野	5	1	2	2	2	—	—
蔵 王	5	1	2	2	2	—	—
千 田	5	1	2	2	2	—	—
御 幸	5	1	2	2	1	1	—
大 津 野	5	1	2	2	2	—	—
春 日	3	1	1	1	1	—	—
坪 生	5	1	2	2	2	—	—
加 茂	4	2	1	1	1	—	—
広 瀬	2	—	1	1	1	—	—
山 野	1	1	—	—	—	—	—
芦 田 東	7	1	3	3	3	—	—
芦田中央	5	1	2	2	2	—	—
芦 田 西	7	1	3	3	2	1	—
駅 家	7	1	3	3	3	—	—
宜 山	5	1	2	2	2	—	—
近 田	1	1	—	—	—	—	—
服 部	5	1	2	2	2	—	—
法 成 寺	3	1	1	1	1	—	—
東	1	1	—	—	—	—	—
西	3	1	1	1	1	—	—
南	1	1	—	—	—	—	—
霞	1	1	—	—	—	—	—
樹 徳	3	1	1	1	1	—	—
川 口	4	2	1	1	1	—	—
手 城	1	1	—	—	—	—	—
深 津	1	1	—	—	—	—	—
箕 島	4	—	2	2	2	—	—
山 郷	9	1	4	4	4	—	—
津 之 郷	3	1	1	1	1	—	—
赤 坂	7	1	3	3	3	—	—

2025年(令和7年)4月1日現在

区 分 分団別	計	消防ポンプ 自 動 車	小型動力 ポ ン プ	積 載 車			そ の 他
				小 計	普 通 車	軽四輪車	
瀬 戸	7	1	3	3	2	1	—
熊 野	9	1	4	4	4	—	—
水 呑	7	1	3	3	2	1	—
田 尻	4	—	2	2	2	—	—
鞆	5	1	2	2	2	—	—
走 島	6	—	3	3	—	3	—
東 村	5	1	2	2	2	—	—
本 郷	5	1	2	2	2	—	—
神 村	11	1	5	5	5	—	—
柳 津	3	1	1	1	1	—	—
金 江	5	1	2	2	1	1	—
藤 江	7	1	3	3	3	—	—
松 永	9	1	4	4	4	—	—
高 西	3	1	1	1	1	—	—
内 海	6	2	2	2	1	1	—
山 南	7	1	3	3	3	—	—
常 石	3	1	1	1	1	—	—
千 年	7	1	3	3	3	—	—
能 登 原	3	1	1	1	1	—	—
常 金 丸	7	1	3	3	3	—	—
網 引	5	1	2	2	2	—	—
新 市	5	1	2	2	2	—	—
戸 手	3	1	1	1	1	—	—
神 辺	4	2	1	1	1	—	—
御 野	5	1	2	2	2	—	—
竹 尋	5	1	2	2	2	—	—
湯 田	3	1	1	1	1	—	—
中 条	5	1	2	2	2	—	—
道 上	3	1	1	1	1	—	—

(注) 団本部、その他欄の2台は指揮車及び広報車

(10) 消防団の分団別活動状況

区 分 分団別	計		火 災		風 水 害 等		訓練その他	
	出動回数	出動人員	出動回数	出動人員	出動回数	出動人員	出動回数	出動人員
計	23,527	76,583	894	3,883	16	62	22,617	72,638
団 本 部	2,694	3,901	131	137	2	2	2,561	3,762
引 野	236	634	27	100	—	—	209	534
蔵 王	380	1,436	32	144	—	—	348	1,292
千 田	481	1,200	40	110	—	—	441	1,090
御 幸	298	1,245	25	136	—	—	273	1,109
大 津 野	371	1,239	26	80	—	—	345	1,159
春 日	374	1,150	15	71	—	—	359	1,079
坪 生	344	1,074	6	24	—	—	338	1,050
加 茂	404	1,540	24	129	—	—	380	1,411
広 瀬	195	722	8	44	—	—	187	678
山 野	237	587	13	36	—	—	224	551
芦 田 東	410	1,609	6	52	—	—	404	1,557
芦田中央	378	1,133	6	28	—	—	372	1,105
芦 田 西	535	3,121	7	38	—	—	528	3,083
駅 家	546	1,621	36	97	—	—	510	1,524
宜 山	372	1,536	9	64	—	—	363	1,472
近 田	220	578	9	21	—	—	211	557
服 部	344	1,307	12	115	—	—	332	1,192
法 成 寺	274	928	7	38	—	—	267	890
東	234	703	16	40	—	—	218	663
西	297	676	15	58	—	—	282	618
南	280	699	13	34	—	—	267	665
霞	236	572	9	25	—	—	227	547
樹 徳	373	863	11	54	—	—	362	809
川 口	417	1,249	23	108	—	—	394	1,141
手 城	263	767	18	64	—	—	245	703
深 津	231	614	12	51	—	—	219	563
箕 島	312	941	14	90	—	—	298	851
山 郷	498	1,773	15	149	—	—	483	1,624
津 之 郷	355	1,037	9	32	—	—	346	1,005
赤 坂	425	1,353	6	31	1	1	418	1,321

2024年中(令和6年中)

区 分 分団別	計		火 災		風 水 害 等		訓練その他	
	出動回数	出動人員	出動回数	出動人員	出動回数	出動人員	出動回数	出動人員
瀬 戸	493	1,117	13	33	—	—	480	1,084
熊 野	539	1,740	16	88	—	—	523	1,652
水 呑	433	1,300	10	62	—	—	423	1,238
田 尻	298	740	10	52	—	—	288	688
鞆	414	1,256	10	66	2	11	402	1,179
走 島	362	1,237	1	18	—	—	361	1,219
東 村	221	988	6	34	—	—	215	954
本 郷	337	1,151	1	5	—	—	336	1,146
神 村	520	1,941	10	75	—	—	510	1,866
柳 津	323	1,049	16	109	6	22	301	918
金 江	269	924	8	31	2	13	259	880
藤 江	316	1,218	2	26	—	—	314	1,192
松 永	435	1,644	10	133	—	—	425	1,511
高 西	262	796	6	33	—	—	256	763
内 海	371	1,460	11	37	—	—	360	1,423
山 南	394	1,035	13	19	—	—	381	1,016
常 石	263	931	7	33	2	6	254	892
千 年	315	1,555	5	32	1	7	309	1,516
能 登 原	407	854	—	—	—	—	407	854
常 金 丸	395	1,858	5	27	—	—	390	1,831
網 引	317	1,549	4	10	—	—	313	1,539
新 市	460	1,697	3	18	—	—	457	1,679
戸 手	351	1,306	6	25	—	—	345	1,281
神 辺	293	1,697	20	135	—	—	273	1,562
御 野	394	1,564	20	111	—	—	374	1,453
竹 尋	399	2,105	13	131	—	—	386	1,974
湯 田	301	1,363	22	122	—	—	279	1,241
中 条	309	1,477	24	123	—	—	285	1,354
道 上	322	1,223	22	95	—	—	300	1,128

(11) 消防団の沿革

1868年(明治元年)	竜吐水 8 台を酒屋 8 軒が備え、町内の青壮年が消防に従事する。
1889年(明治22年) 6 月 1 日	市制町村制により福山町になる。
12月28日	「消防組規制」広島県令が出る。
1893年(明治26年)	英人宣教師ベツールが舶来の手押しポンプ 1 台を移入し、私設福山町消防組を設置する。
1894年(明治27年) 2 月	勅令により消防組規制が制定され、私設消防組を町営消防組に改める。
1910年(明治43年) 5 月20日	公設福山町消防組を設置、組頭以下80人とする。
1916年(大正 5 年) 7 月 1 日	福山市制施行
7 月10日	市制施行により福山市消防組に改編し、組頭以下130人とする。(消防屯所 1 カ所、纏 2 本、梯子 4 基、手押しポンプ 3 台、運水器26個)
1919年(大正 8 年) 11月13日	広島県下で最初の四輪手挽ポンプ25馬力 1 台を購入する。
1920年(大正 9 年) 7 月 1 日	福山市水防組を設置、水防長以下57人とする。
1925年(大正14年)	2 台目の自動車ポンプを購入する。
1927年(昭和 2 年) 1 月18日	福山市消防組員600人となる。
1932年(昭和 7 年) 12月26日	広島県知事から金馬簾を授与される。
1933年(昭和 8 年) 2 月22日	防護団を設置する。
1934年(昭和 9 年) 4 月10日	福山市消防組を18組592人で編成する。
1939年(昭和14年) 4 月 1 日	消防団令公布により、消防組と防護団を解体し警防団を結成、団長以下1,044人とする。(自動車ポンプ 3 台、手挽ポンプ 1 台、腕用ポンプ 1 台)
1942年(昭和17年) 7 月 1 日	山手村・郷分村を合併、警防団は 9 分団1,357人となる。
1944年(昭和19年) 2 月 8 日	警防団員1,439人となる。
1947年(昭和22年) 8 月 4 日	消防団令の公布施行により福山市消防団を設置、消防団の定員を725人とする。
1952年(昭和27年) 5 月 9 日	福山市消防団は 9 分団、定員690人となる。(ポンプ自動車 4 台、三輪ポンプ自動車 4 台、手挽ポンプ 4 台、腕用ポンプ21台)
1954年(昭和29年) 11月 9 日	広島県消防協会長から竿頭綬を授与される。
1956年(昭和31年) 9 月30日	瀬戸村・熊野村・水呑町・鞆町等10町村を合併し、消防団は21分団2,789人となる。
11月23日	広島県知事から竿頭金馬簾を授与される。
1957年(昭和32年) 3 月 4 日	福山市消防団条例を制定、21分団2,069人とする。
1961年(昭和36年) 2 月11日	日本消防協会長から竿頭綬を授与される。
4 月 1 日	消防団員退職報償金制度を実施する。
1962年(昭和37年) 1 月 1 日	深安町を合併、消防団を改編し定員1,833人とする。
1966年(昭和41年) 5 月 1 日	松永市と合併、消防団を改編し33分団2,658人とする。
	消防団員退職報償金支給条例を施行する。
1967年(昭和42年) 3 月 7 日	消防庁長官から竿頭綬を授与される。
11月 9 日	広島県消防協会長から表彰旗を授与される。

1971年(昭和46年) 4月 1日	消防団の総合整備を実施、定員を2,169人とする。
1973年(昭和48年) 6月 1日	消防団の総合整備を実施、定員を1,608人とする。
1974年(昭和49年) 2月20日	日本消防協会長から表彰旗を授与される。
4月 1日	芦田町を合併、消防団を改編し36分団1,956人とする。
1975年(昭和50年) 2月 1日	駅家町・加茂町を合併、消防団を改編し50分団2,636人とする。
1976年(昭和51年) 7月15日	消防団の総合整備を実施、定員を2,130人とする。
7月27日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）で、芦田西分団が優勝する。
1978年(昭和53年) 10月15日	第6回全国消防操法大会（小型動力ポンプの部）へ、県代表として芦田西分団が出場、日本消防協会長から竿頭綬を授与される。
1984年(昭和59年) 3月 9日	消防庁長官から表彰旗を授与される。
1985年(昭和60年) 9月12日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）で、芦田西分団が優勝する。
1986年(昭和61年) 10月14日	第10回全国消防操法大会に出場した芦田西分団は、小型動力ポンプの部において準優勝する。
1987年(昭和62年) 9月 8日	広島県消防ポンプ操法競技大会（消防ポンプ自動車の部）で、東分団が優勝する。
1988年(昭和63年) 3月 9日	日本消防協会長から、特別表彰「まとい」を授与される。
10月12日	第11回全国消防操法大会（消防ポンプ自動車の部）へ、県代表として東分団が出場する。
1989年(平成元年) 4月 1日	消防団の総合整備を実施、定員を1,820人とする。
9月14日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）で、芦田東分団が優勝する。
1990年(平成2年) 10月12日	第12回全国消防操法大会へ出場した芦田東分団は、小型動力ポンプの部において優良賞を授与される。
1993年(平成5年) 9月14日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）で、本郷分団が優勝する。
1994年(平成6年) 10月13日	第14回全国消防操法大会（小型動力ポンプの部）へ、県代表として本郷分団が出場する。
1997年(平成9年) 9月 5日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）で、芦田東分団が優勝する。
1998年(平成10年) 10月 8日	第16回全国消防操法大会（小型動力ポンプの部）へ、県代表として芦田東分団が出場する。
1999年(平成11年) 9月10日	広島県消防ポンプ操法競技大会（消防ポンプ自動車の部）で、蔵王分団が優勝する。
2000年(平成12年) 10月19日	第17回全国消防操法大会へ出場した蔵王分団は、消防ポンプ自動車の部において優良賞を授与される。
2001年(平成13年) 9月11日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）で、山野分団が準優勝する。

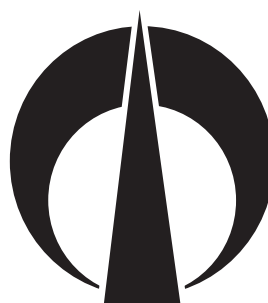
2003年(平成15年) 2月 3日	内海町・新市町を合併、消防団を改編し51分団2,236人とする。
9月 9日	広島県消防ポンプ操法競技大会（消防ポンプ自動車の部）で、芦田中央分団が優勝する。
2004年(平成16年) 11月 8日	第19回全国消防操法大会へ出場した芦田中央分団は、消防ポンプ自動車の部において全国優勝する。
2005年(平成17年) 2月 1日	沼隈町を合併、消防団を55分団2,464人とする。
9月13日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）で、蔵王分団が優勝する。
2006年(平成18年) 3月 1日	神辺町を合併、消防団を61分団2,864人とする。
4月 1日	女性消防団員26人が入団する。
10月19日	第20回全国消防操法大会へ出場した蔵王分団は、小型動力ポンプの部において敢闘賞を授与される。
2007年(平成19年) 2月20日	平成18年 1月11日の本郷町林野火災の功労に対して、消防庁長官から褒状を授与される。
9月11日	広島県消防ポンプ操法競技大会（消防ポンプ自動車の部）で、法成寺分団が優勝する。
2008年(平成20年) 4月 1日	福山市消防団協力事業所表示制度実施要綱を制定し、25事業所へ表示証を交付する。
10月12日	第21回全国消防操法大会へ出場した法成寺分団は、消防ポンプ自動車の部において優良賞を授与される。
2009年(平成21年) 9月 9日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）で、芦田西分団が優勝する。
2010年(平成22年) 2月22日	団本部へ指揮車 1 台が寄贈される。
11月12日	第22回全国消防操法大会へ出場した芦田西分団は、小型動力ポンプの部において準優勝する。
2011年(平成23年) 9月10日	広島県消防ポンプ操法競技大会（消防ポンプ自動車の部）で、蔵王分団が優勝する。
2012年(平成24年) 10月 7日	第23回全国消防操法大会へ出場した蔵王分団は、消防ポンプ自動車の部において準優勝する。
2013年(平成25年) 9月 7日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）で、道上分団が優勝する。
2014年(平成26年) 11月 8日	第24回全国消防操法大会へ出場した道上分団は、小型動力ポンプの部において準優勝する。
2015年(平成27年) 3月 6日	消防庁長官から竿頭綬を授与される。
4月 1日	内海町 3 分団を統廃合、内海町 1 分団とする。 女性分団（50人）を発足し、消防団を改編し60分団2,864人とする。 福山市消防団員サポート店登録要綱を制定し、消防団員を民間でサポートする仕組みを充実させる。
9月 5日	広島県消防ポンプ操法競技大会（消防ポンプ自動車の部）で、芦田西分団が優勝する。

2016年(平成28年) 10月14日	第25回全国消防操法大会（消防ポンプ自動車の部）へ、県代表として芦田西分団が出場する。
2017年(平成29年) 4月 1日	消防団員の就職活動を支援することを目的に、福山市学生消防団員活動認証制度実施要綱を制定する。
9月 2日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）で、芦田東分団が優勝する。
12月12日	団本部へ広報車 1 台が寄贈される。
2018年(平成30年) 10月19日	第26回全国消防操法大会へ出場した芦田東分団は、小型動力ポンプの部において優良賞を授与される。
12月20日	平成30年 7 月豪雨の功労に対して、総務大臣から感謝状を授与される。
2019年(平成31年) 2月10日	平成30年 7 月豪雨の功労に対して、消防庁長官から表彰状を授与される。
2月13日	平成30年 7 月豪雨の功労に対して、国土交通大臣から表彰状を授与される。
2019年(令和元年) 9月 1日	平成30年 7 月豪雨の功労に対して、内閣総理大臣から表彰状を授与される。
9月 7日	広島県消防ポンプ操法競技大会（消防ポンプ自動車の部）で、服部分団が優勝する。
11月13日	第24回全国女性消防操法大会へ、県代表として女性分団が出場する。
2022年(令和 4 年) 10月29日	第29回全国消防操法大会へ出場した服部分団は、消防ポンプ自動車の部において優良賞を授与される。
2023年(令和 5 年) 10月21日	第25回全国女性消防操法大会へ出場した女性分団が、優良賞を授与される。
11月25日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型ポンプ操法の部）で、芦田西分団が優勝する。
2024年(令和 6 年) 7月10日	多年にわたる消防発展等の功績に対して、消防団長が消防功労者総務大臣表彰を授与される。
10月 1日	女性消防団員の地域分団への入団を可とする。
10月12日	第30回全国消防操法大会へ出場した芦田西分団は、小型ポンプの部において優良賞を授与される。
11月29日	消防行政の多大なる発展等の功績に対して、消防団長が自治体消防75周年記念内閣総理大臣表彰を授与される。

2. 府中市消防団

2025年(令和7年)4月1日現在

人 口	34,846 人
世 帯	16,786 世帯
面 積	195.75 km ²



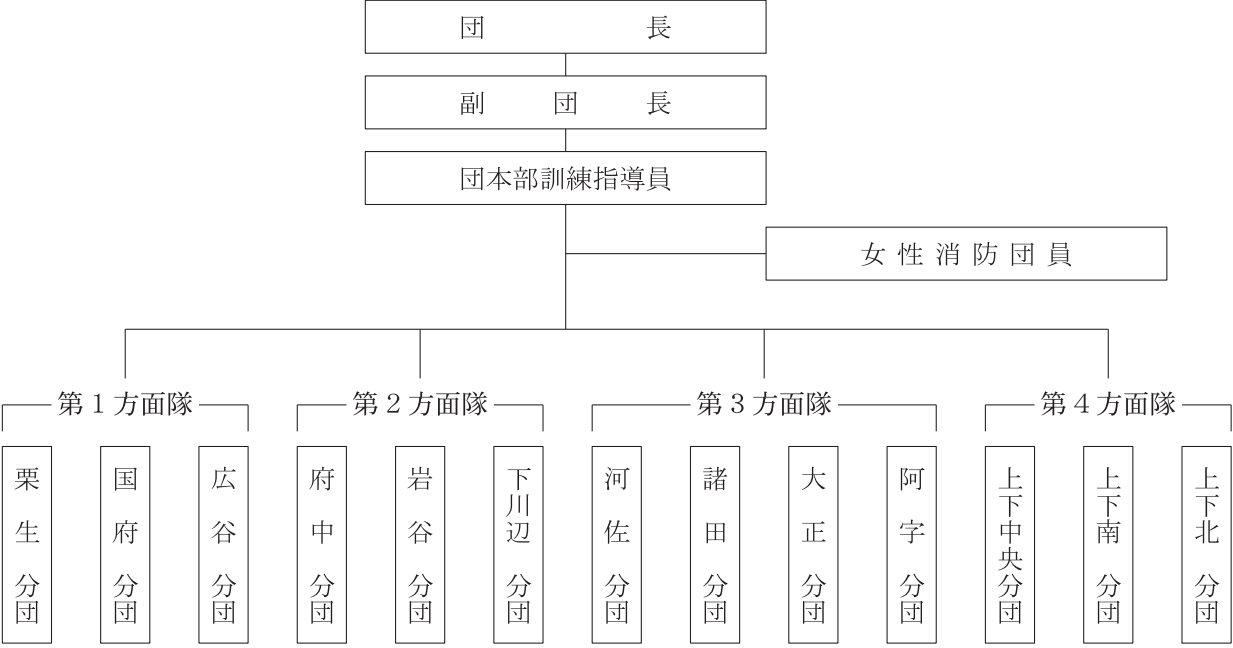
府中市章

「フ」と「中」をデフォルメし、円満のうちに大きく発展上昇の意を表しています。

(1) 消防団の分団配置図



(2) 消防団の組織図



(3) 消防団の定員と報酬

2025年(令和7年)4月1日現在

階級 区分	計	団 長	副 団 長	分 団 長	副分団長	部 長	班 長	団 員
定 員	630	1	4	21	26	47	100	431
職 務 報 酬	(年額)	82,500	69,000	50,500	45,500	38,000	37,000	36,500
出 動 報 酬	日額8,000円以内							

(4) 消防団員退職・新任状況

2024年度(令和6年度)

退職団員数	自 己 都 合	傷 病			死 亡		
		計	公 務	その他	計	公 務	その他
31	30	—	—	—	1	—	1
	在 職 年 数						
	5 年未満	5 ～10	10～15	15～20	20～25	25～30	30年以上
	1	1	2	7	2	5	13
新任団員数	18歳～ 20歳	21歳～ 25歳	26歳～ 30歳	31歳～ 35歳	36歳～ 40歳	41歳～ 45歳	46歳以上
13	—	6	2	2	1	—	2

(5) 消防団在職年数別団員数

2025年(令和7年)4月1日現在

階 級 年 数	計	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員
平 均 在 職 年 数	17.1 (6.3)	23.0	25.5	26.4	25.3	22.8	15.2	16.7
計	613 (13)	1	4	21	26	48 (1)	101 (1)	412 (11)
5 年未満	34	—	—	—	1	—	—	33
5 年以上～10年未満	75 (5)	—	—	1	—	3	15	56 (5)
10年以上～15年未満	101 (8)	—	—	1	1	4 (1)	25 (1)	70 (6)
15年以上～20年未満	98	—	1	2	2	14	18	61
20年以上～25年未満	99	1	—	5	6	11	22	54
25年以上～30年未満	96	—	2	9	6	10	14	55
30年以上	110	—	1	3	10	6	7	83

※ () は女性消防団員で内数

(6) 消防団年齢別団員数

2025年(令和7年)4月1日現在

階 級 年 数	計	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員
平 均 年 齢	50.2	51.0	56.0	51.1	50.7	48.6	47.0	47.3
計	613 (13)	1	4	21	26	48 (1)	101 (1)	412 (11)
18歳以上～21歳未満	2	—	—	—	—	—	—	2
21歳以上～26歳未満	9	—	—	—	—	—	—	9
26歳以上～31歳未満	19 (1)	—	—	—	—	—	1	18 (1)
31歳以上～36歳未満	41	—	—	—	—	—	5	36
36歳以上～41歳未満	49	—	—	—	—	4	9	36
41歳以上～46歳未満	107 (3)	—	—	2	2	10	22	71 (3)
46歳以上～51歳未満	136 (2)	1	1	7	11	17	30	69 (2)
51歳以上～56歳未満	130 (1)	—	2	12	11	14	26	65 (1)
56歳以上	120 (6)	—	1	—	2	3 (1)	8 (1)	106 (4)

※ () は女性消防団員で内数

(7) 消防団の団員表彰状況

2024年度(令和6年度)

区 分	叙 勲	消防庁長官	日本消防協会長	県 知 事	県消防協会長
計					
112	—	5	3	24	80

(8) 消防団の分団別定員と実員

2025年(令和7年)4月1日現在

区 分 分団別	定 員	実 員							
		計	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員
計	630	613	1	4	21	26	48	101	412
本 部	28	26	1	4	8	—	1	1	11
栗 生	51	50	—	—	1	2	4	8	35
国 府	55	55	—	—	1	2	3	6	43
広 谷	49	48	—	—	1	2	4	9	32
府 中	33	31	—	—	1	2	4	6	18
岩 谷	48	48	—	—	1	2	4	8	33
下 川 辺	53	53	—	—	1	2	4	9	37
河 佐	41	42	—	—	1	2	2	6	31
諸 田	32	31	—	—	1	2	2	4	22
大 正	37	35	—	—	1	2	3	7	22
阿 字	39	37	—	—	1	2	2	6	26
上下中央	47	46	—	—	1	2	4	8	31
上 下 南	58	56	—	—	1	2	5	11	37
上 下 北	59	55	—	—	1	2	6	12	34

(9) 消防団の分団別消防機械配置状況

2025年(令和7年)4月1日現在

区 分 分団別	計	消防ポンプ 自 動 車	小型動力 ポ ン プ	積 載 車			そ の 他
				小 計	普 通 車	軽四輪車	
計	84	9	37	36	32	4	2
本 部	3	—	1	—	—	—	2
栗 生	7	1	3	3	3	—	—
国 府	3	1	1	1	1	—	—
広 谷	5	1	2	2	1	1	—
府 中	5	1	2	2	1	1	—
岩 谷	7	1	3	3	3	—	—
下 川 辺	7	1	3	3	2	1	—
河 佐	4	—	2	2	2	—	—
諸 田	6	—	3	3	3	—	—
大 正	5	1	2	2	2	—	—
阿 字	4	—	2	2	2	—	—
上下中央	6	2	2	2	2	—	—
上 下 南	10	—	5	5	4	1	—
上 下 北	12	—	6	6	6	—	—

(注) 本部、その他欄の2台は指揮車及び広報車

(10) 消防団の分団別活動状況

2024年中(令和6年中)

区 分 分団別	計		火 災		風 水 害 等		訓練その他	
	出動回数	出動人員	出動回数	出動人員	出動回数	出動人員	出動回数	出動人員
計	377	4,171	75	766	—	—	302	3,405
本 部	37	320	16	90	—	—	21	230
栗 生	28	394	4	24	—	—	24	370
国 府	28	397	4	77	—	—	24	320
広 谷	32	385	8	50	—	—	24	335
府 中	28	251	6	52	—	—	22	199
岩 谷	28	387	6	140	—	—	22	247
下 川 辺	30	453	8	170	—	—	22	283
河 佐	22	192	2	12	—	—	20	180
諸 田	22	165	2	15	—	—	20	150
大 正	24	172	4	21	—	—	20	151
阿 字	24	175	4	15	—	—	20	160
上下中央	25	282	4	42	—	—	21	240
上 下 南	26	290	5	30	—	—	21	260
上 下 北	23	308	2	28	—	—	21	280

(11) 消防団の沿革

1954年(昭和29年) 3月31日	府中市制施行に伴い24分団、団員1,048人で発足
1955年(昭和30年) 11月 1日	組織の改正を図り、分団数21に統合し、団員定数を800人とする。
1956年(昭和31年) 9月30日	河佐村、諸田村及び三郎丸の一部を編入し、分団数26、総員997人となる。
1958年(昭和33年) 2月11日	日本消防協会長から表彰旗を受賞
1959年(昭和34年) 3月 7日	国家消防本部から竿頭綬を受賞
4月 1日	消防団改編により、1 団本部 8 分団、総員576人となる。
1960年(昭和35年) 3月 1日	国家消防本部長から最高栄誉の国家表彰旗を受賞
1963年(昭和38年) 9月18日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）に出場
1968年(昭和43年) 9月10日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）に出場し、初優勝
1970年(昭和45年) 10月15日	第2回全国消防操法大会（小型動力ポンプの部）へ広島県代表として広谷分団第4部が出場し、第2位に入賞
1972年(昭和47年) 1月 1日	消防団員591人となる。
9月13日	広島県消防ポンプ操法競技大会（消防ポンプ自動車の部）に出場
1973年(昭和48年) 11月27日	広島県消防協会長から自治体消防25周年に当たり、優良消防団として盾及び表彰状を受けた。
1975年(昭和50年) 2月 1日	協和村との合併に伴う条例改正により、分団を10分団、総員726人となる。
1976年(昭和51年) 7月27日	広島県消防ポンプ操法競技大会（小型動力ポンプの部）に出場

1980年(昭和55年) 7月23日	広島県消防ポンプ操法競技大会(小型動力ポンプの部)に出場
1983年(昭和58年) 9月13日	広島県消防ポンプ操法競技大会(消防ポンプ自動車の部)に出場
1984年(昭和59年) 2月10日	第35回日本消防協会特別表彰「まとい」を受賞
1985年(昭和60年) 9月12日	広島県消防ポンプ操法競技大会(小型動力ポンプの部)に出場
1987年(昭和62年) 2月20日	消防団緊急伝達システム5基を設置
9月8日	広島県消防ポンプ操法競技大会(消防ポンプ自動車の部)に出場
1989年(平成元年) 9月14日	広島県消防ポンプ操法競技大会(小型動力ポンプの部)に出場し、 第3位に入賞
1991年(平成3年) 9月12日	広島県消防ポンプ操法競技大会(消防ポンプ自動車の部)に出場し、優勝
1992年(平成4年) 10月14日	第13回全国消防操法大会(消防ポンプ自動車の部)へ広島県代表 として大正分団が出場し、優良賞(第6位)を受賞
1993年(平成5年) 9月14日	広島県消防ポンプ操法競技大会(小型動力ポンプの部)に出場
1995年(平成7年) 9月14日	広島県消防ポンプ操法競技大会(消防ポンプ自動車の部)に出場
1997年(平成9年) 9月5日	広島県消防ポンプ操法競技大会(小型動力ポンプの部)に出場
1998年(平成10年) 11月27日	台風10号による洪水に対しての水防の功績により建設大臣から 「水防功労者」を受賞
1999年(平成11年) 9月10日	広島県消防ポンプ操法競技大会(消防ポンプ自動車の部)に出場
2001年(平成13年) 9月11日	広島県消防ポンプ操法競技大会(小型動力ポンプの部)に出場
2002年(平成14年) 10月1日	条例改正により、総員670人となる。
2004年(平成16年) 4月1日	上下町との合併に伴う条例改正により、分団を13分団、総員970人となる。
2005年(平成17年) 9月13日	広島県消防ポンプ操法競技大会(小型動力ポンプの部)に出場
2007年(平成19年) 9月11日	広島県消防ポンプ操法競技大会(消防ポンプ自動車の部)に出場し、準優勝
2008年(平成20年) 10月1日	条例改正により、総員920人となる。
2009年(平成21年) 9月9日	広島県消防ポンプ操法競技大会(小型動力ポンプの部)に出場し、準優勝
2011年(平成23年) 9月10日	広島県消防ポンプ操法競技大会(消防ポンプ自動車の部)に出場
2012年(平成24年) 11月1日	女性消防団員5人が入団する。
2013年(平成25年) 9月7日	広島県消防ポンプ操法競技大会(小型動力ポンプの部)に出場
2014年(平成26年) 11月25日	女性消防団に広報車が貸与される。
2015年(平成27年) 9月5日	広島県消防ポンプ操法競技大会(消防ポンプ自動車の部)に出場
2017年(平成29年) 9月2日	広島県消防ポンプ操法競技大会(小型動力ポンプの部)に出場
10月1日	条例改正により、総員846人となる。
2018年(平成30年) 12月20日	平成30年7月豪雨の功労に対して、総務大臣から感謝状を授与される。
2019年(平成31年) 2月10日	平成30年7月豪雨の功労に対して、消防庁長官から表彰状を授与される。
2019年(令和元年) 9月1日	平成30年7月豪雨の功労に対して、内閣総理大臣から表彰状を授与される。
9月7日	広島県消防ポンプ操法競技大会(消防ポンプ自動車の部)に出場し、 第3位に入賞
2023年(令和5年) 4月1日	条例改正により、総員720人となる。
11月25日	広島県消防ポンプ操法競技大会(小型動力ポンプの部)に出場
2025年(令和7年) 4月1日	条例改正により、総員630人となる。

3. 神石高原町消防団

2025年(令和7年)4月1日現在

人 口	7,723 人
世 帯	3,701 世帯
面 積	381.98 km ²

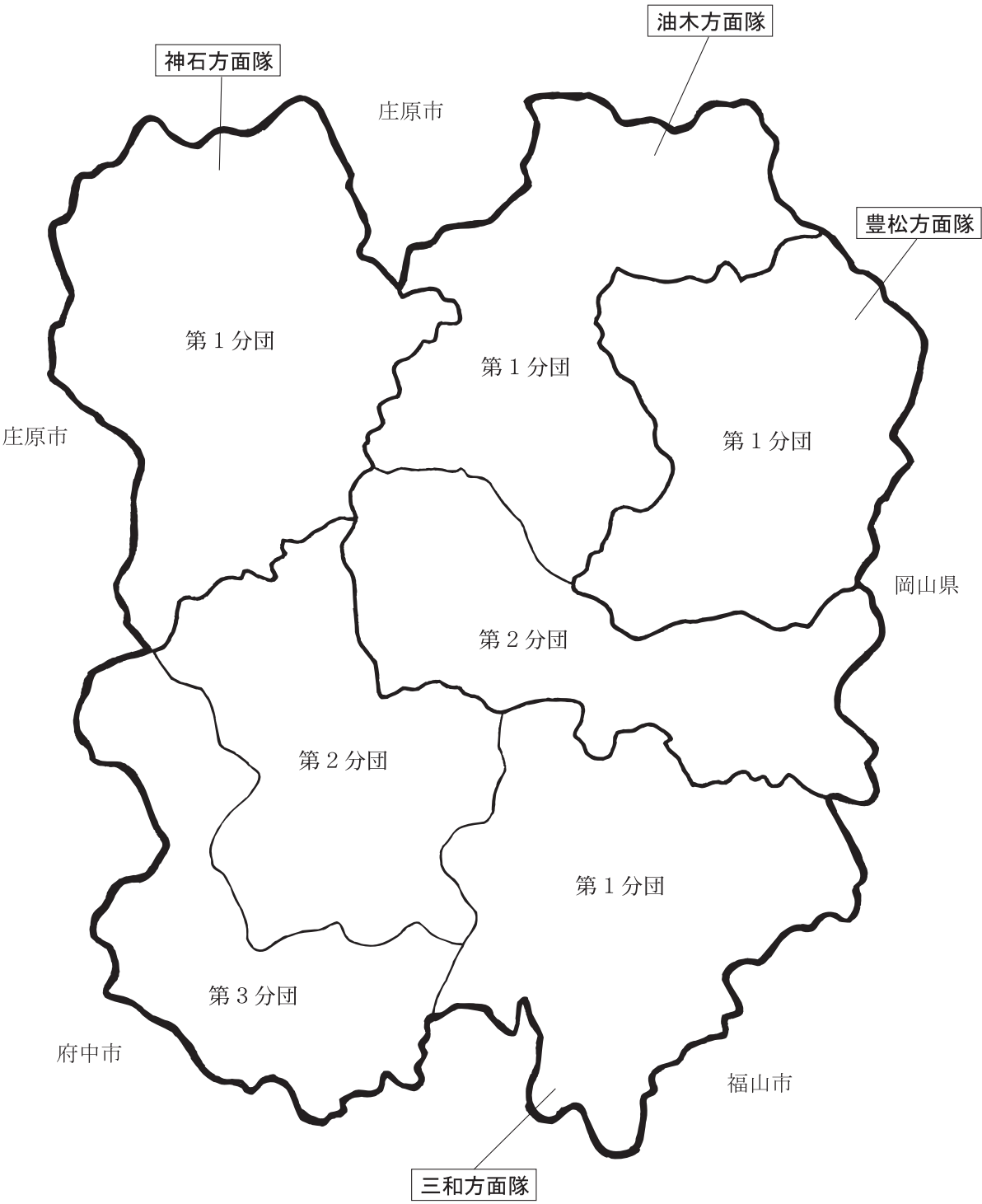


神石高原町章

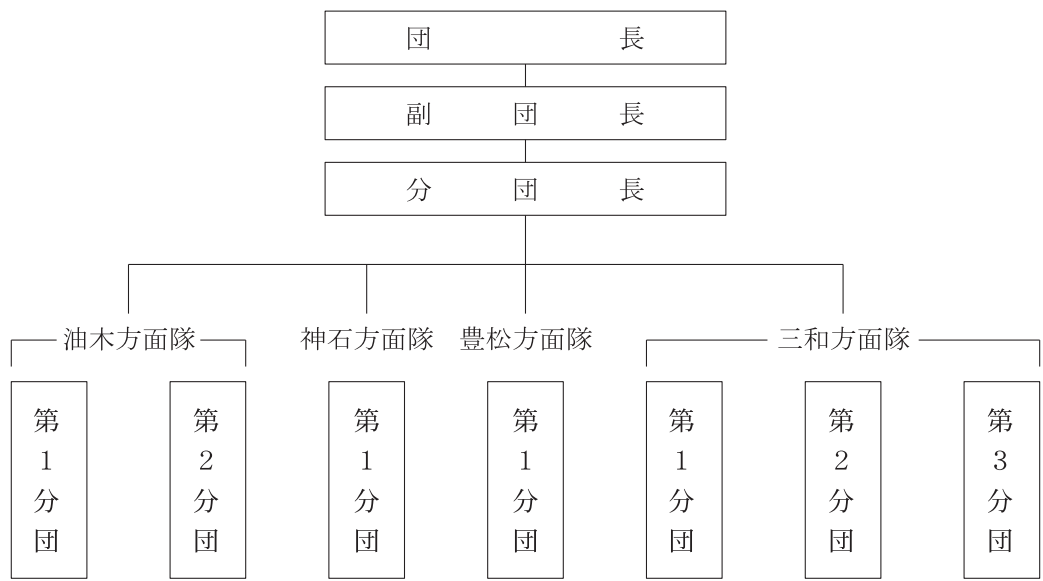
神石高原の「じ」の形を、高原の自然の源となる「太陽」「星」「月」のパーツを配して表現しています。

また、星（夢・未来・輝き）に向かい手を広げ掴もうとする姿を現し、対外的には神石高原町の民の社会貢献と前向きな姿勢を象徴しています。

(1) 消防団の分団配置図



(2) 消防団の組織図



(3) 消防団の定員と報酬

2025年(令和7年)4月1日現在

階級 区分	計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員 (機能別団員)
定員	585	1	4	20	28	26	98	408 (35)
職務報酬	(年額)	82,500	69,000	50,000	45,500	37,000	30,000	22,000 (10,000)
出動報酬	出動1回につき3,300円(警戒・訓練・その他の場合) 出動1回につき8,000円以内(火災・風水災・行方不明者搜索等の場合)							

(4) 消防団員退職・新任状況

2024年度(令和6年度)

退職団員数	自己都合	傷病			死亡		
		計	公務	その他	計	公務	その他
77	77	—	—	—	—	—	—
	在職年数						
	5年未満	5～10	10～15	15～20	20～25	25～30	30年以上
	6	16	5	6	10	10	24
新任団員数	18歳～ 20歳	21歳～ 25歳	26歳～ 30歳	31歳～ 35歳	36歳～ 40歳	41歳～ 45歳	46歳以上
14	1	7	4	1	—	—	1

(5) 消防団在職年数別団員数

2025年(令和7年)4月1日現在

階 級 年 数	計	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員
平 均 在 職 年 数	17.4	36.0	31.3	26.3	22.1	19.7	16.2	16.5
計	550	1	4	20	28	26	97	374
5 年未満	68	—	—	—	—	—	6	62
5 年以上～10年未満	79	—	—	—	—	3	14	62
10年以上～15年未満	92	—	—	1	4	5	25	57
15年以上～20年未満	73	—	—	—	5	4	20	44
20年以上～25年未満	78	—	—	4	8	5	16	45
25年以上～30年未満	87	—	1	12	9	6	12	47
30年以上	73	1	3	3	2	3	4	57

(6) 消防団年齢別団員数

2025年(令和7年)4月1日現在

階 級 年 数	計	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員
平 均 年 齢	45.0	58.0	55.5	50.0	47.1	47.7	41.6	45.1
計	550	1	4	20	28	26	97	374
18歳以上～21歳未満	1	—	—	—	—	—	—	1
21歳以上～26歳未満	22	—	—	—	—	—	—	22
26歳以上～31歳未満	34	—	—	—	—	—	8	26
31歳以上～36歳未満	50	—	—	—	—	2	10	38
36歳以上～41歳未満	77	—	—	—	3	1	24	49
41歳以上～46歳未満	82	—	—	1	7	4	22	48
46歳以上～51歳未満	127	—	—	10	11	13	24	69
51歳以上～56歳未満	77	—	2	9	7	3	7	49
56歳以上	80	1	2	—	—	3	2	72

(7) 消防団の団員表彰状況

2024年度(令和6年度)

区 分	叙 勲	消防庁長官	日本消防協会長	県 知 事	県消防協会長
計					
67	—	—	19	5	43

(8) 消防団の分団別定員と実員

2025年(令和7年)4月1日現在

区 分 分団別	定 員	実 員							
		計	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員
計	585	550	1	4	20	28	26	97	374
本 部	585	2	1	—	—	—	—	—	1
油木方面隊本部		5	—	1	3	—	1	—	—
第 1 分 団		52	—	—	1	4	4	7	36
第 2 分 団		71	—	—	1	4	4	8	54
神石方面隊本部		5	—	1	3	—	1	—	—
第 1 分 団		116	—	—	1	4	4	17	90
豊松方面隊本部		5	—	1	3	—	1	—	—
第 1 分 団		59	—	—	1	4	2	12	40
三和方面隊本部		5	—	1	4	—	—	—	—
第 1 分 団		66	—	—	1	4	3	17	41
第 2 分 団		89	—	—	1	4	3	18	63
第 3 分 団		75	—	—	1	4	3	18	49

(9) 消防団の分団別消防機械配置状況

2025年(令和7年)4月1日現在

区 分 分団別	計	消防ポンプ 自 動 車	小型動力 ポ ン プ	積 載 車			そ の 他
				小 計	普 通 車	軽四輪車	
計	58	9	24	21	20	1	4
本 部	—	—	—	—	—	—	—
油木方面隊本部	1	—	—	—	—	—	1
第 1 分 団	12	1	7	4	3	1	—
第 2 分 団	7	1	3	3	3	—	—
神石方面隊本部	1	—	—	—	—	—	1
第 1 分 団	14	2	6	6	6	—	—
豊松方面隊本部	1	—	—	—	—	—	1
第 1 分 団	6	2	2	2	2	—	—
三和方面隊本部	1	—	—	—	—	—	1
第 1 分 団	5	1	2	2	2	—	—
第 2 分 団	5	1	2	2	2	—	—
第 3 分 団	5	1	2	2	2	—	—

(注) 各方面隊本部、その他欄の4台は指揮車

(10) 消防団の分団別活動状況

2024年中(令和6年中)

区 分 分団別	計		火 災		風 水 害 等		訓練その他	
	出動回数	出動人員	出動回数	出動人員	出動回数	出動人員	出動回数	出動人員
計	126	2,628	48	634	—	—	78	1,994
本 部	17	26	12	21	—	—	5	5
油木方面隊本部	18	45	4	11	—	—	14	34
第 1 分 団	18	304	4	71	—	—	14	233
第 2 分 団	18	340	3	68	—	—	15	272
神石方面隊本部	19	41	1	5	—	—	18	36
第 1 分 団	19	405	1	49	—	—	18	356
豊松方面隊本部	20	42	2	8	—	—	18	34
第 1 分 団	20	302	2	54	—	—	18	248
三和方面隊本部	22	56	4	18	—	—	18	38
第 1 分 団	21	293	5	79	—	—	16	214
第 2 分 団	23	409	5	116	—	—	18	293
第 3 分 団	19	365	5	134	—	—	14	231

(11) 消防団の沿革

1947年(昭和22年) 8 月	油木町消防団発足する。定員350人
	豊松村消防団発足する。定員400人
1954年(昭和29年)11月	神石町消防団発足する。定員500人
1955年(昭和30年) 3 月	三和町消防団発足する。定員900人
1969年(昭和44年) 4 月	三和町消防団機構改革により 3 分団制となる。定員300人
2000年(平成12年) 9 月	油木町消防団員の定数を230人とする。
2001年(平成13年) 6 月	豊松村消防団員の定数を150人とする。
2004年(平成16年) 1 月	神石町消防団機構改革により 2 分団制となる。定員200人
11月	神石郡四町村合併により神石高原町消防団となる。定員800人
	旧消防団の管轄区域を方面隊とし、油木方面隊・神石方面隊・豊松方面隊・三和方面隊の 4 方面隊体制となる。
2005年(平成17年) 9 月	平成17年度広島県消防ポンプ操法競技大会出場 優良賞 (第 4 位)
2007年(平成19年) 9 月	平成19年度広島県消防ポンプ操法競技大会出場 優良賞 (第 6 位)
2008年(平成20年) 3 月	神石高原町消防団員の定数を760人とする。
2011年(平成23年) 9 月	平成23年度広島県消防ポンプ操法競技大会出場 優良賞 (第 7 位)
2013年(平成25年) 1 月	神石高原町消防団機構改革により、神石方面隊・豊松方面隊を 1 分団制とする。
4 月	神石高原町消防団員の定数を700人とする。
2015年(平成27年) 9 月	平成27年度広島県消防ポンプ操法競技大会出場 優良賞 (第 4 位)
2018年(平成30年) 1 月	神石高原町消防団員機構改革により、機能別団員制度を導入し、定数を715人とする。
12月	平成30年 7 月豪雨の功労に対して、総務大臣から感謝状を授与される。
2019年(平成31年) 2 月	平成30年 7 月豪雨の功労に対して、消防庁長官から表彰状を授与される。
2023年(令和 5 年) 4 月	神石高原町消防団員の定数を645人とする。
2025年(令和 7 年) 4 月	神石高原町消防団員の定数を585人とする。

4. 構成市町消防団集計

2025年(令和7年)4月1日現在

区分 構成 団体別	分 団 数	定 員	実 員								平 均 年 齢
			計	団 長	副 団 長	分 団 長 ・ 分 団 長 級	副 分 団 長	部 長	班 長	団 員	
計	80	4,079	3,697 (72)	3	16	109 (1)	174 (2)	245 (4)	371 (4)	2,783 (61)	46.4
福 山 市	60	2,864	2,534 (59)	1	8	68 (1)	120 (2)	170 (3)	170 (3)	1,997 (50)	44.0
府 中 市	13	630	613 (13)	1	4	21	26	48 (1)	101 (1)	412 (11)	50.2
神石高原町	7	585	550	1	4	20	28	26	97	374	45.0

※（ ）は女性消防団員で内数

2025年(令和7年)4月1日現在

区分 構成 団体別	計	消防ポンプ 自 動 車	小型動力 ポ ン プ	積 載 車			そ の 他
				小 計	普 通 車	軽四輪車	
計	423	77	172	166	152	14	8
福 山 市	281	59	111	109	100	9	2
府 中 市	84	9	37	36	32	4	2
神石高原町	58	9	24	21	20	1	4